

2025年度グローバル教養学部

帰国生徒(外国学校就学経験者)入学試験

1. 実施状況

(1) 志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻等	志願者数	合格者数
グローバル教養学部	53	49

(2) 本入学試験の目的

グローバル教養学部グローバル教養学科は、グローバル化した世界にふさわしいリベラル・アーツの学びを総合的に英語で学ぶことによって、グローバル化する社会のなかで実践的に問題発見・問題解決をリードし、学び続けることのできる人材を育成します。日本とオーストラリア両国での学びを通じて、多文化社会に生きる人々と協働し、将来、日本、アジア、そして国際社会のリーダーとして貢献することに強い意欲を持つ生徒の受験を期待しています。本入学試験は、高等学校などの成績や2種類のエッセイに基づく書類選考を通じて、アドミッション・ポリシーに定めた素養と資質、学力、関心を有する学生を受け入れることを目的としています。

2. 試験内容

高等学校等の成績、Essay 1及びEssay 2を総合的に評価します。Essay 1及びEssay 2では、以下が求められます。

The purpose of the following two essays is for you to reflect on what you have done from the time you entered high school until now and to identify your reasons and plans for studying at the College of Global Liberal Arts. Please write the essays based on this purpose.

① Essay 1 (within 200 words)

Select one thing you have focused on the most from the time you entered high school until now. Then, describe specifically how this has helped you grow, giving details of actual events that contributed to your growth and what you gained from the process. *This essay must be titled.

② Essay 2 (within 200 words)

Describe what your interests are and how you would like to explore those interests through your study at the College of Global Liberal Arts.

3. 出題の意図

Essay 1の意図は、志願者の行動パターンや思考の傾向といった行動特性を把握することにあります。高等学校入学以降、最も力を注いだ活動に対して、志願者がどう向き合い、そこから何を学び、どう成長したかなど、その内容から本学部のアドミッション・ポリシーに定められた素養・資質を有するかを審査することを意図しています。

Essay 2の意図は、本学部での学びに対して志願者が強い関心や意欲があるか、積極的な姿勢・態度が示されているかを把握することにあります。そして、本学部を志望する理由を確認することも意図しています。

また、Essay 1、Essay 2を通して、志願者の英語ライティング力を測ることも意図しています。

4. 評価のポイント

Essay 1は、高等学校入学以降、志願者が最も力を注いだ活動を通して、目的を達成するための努力、その中での他者との関係性、自己設定した課題に対する自己評価・ふり返りなどを述べる

ことが求められます。何をしたかという説明に終わらず、そこから何を学び、どう成長したかということが明瞭に分かる内容にすることが高評価につながります。また、Essay 1はタイトルをつけることが求められますが、内容に沿った的確なタイトルをつけることも重要です。

Essay 2は、本学部で学ぶことへの高い意欲と関心、積極的な態度が分かる内容になっていることがポイントです。Essay 1で書いたことと関連づけて、Essay 2を展開できることも高い評価につながります。

また、Essay 1、Essay 2ともに、英語での文章表現力が問われます。エッセイの構成や内容を熟考し、求められていることを限られた語数の中で簡潔且つ明瞭に書くことが肝要です。

5. 解答状況

Essay 1、Essay 2に求められる内容を、多くの志願者が水準に達する英語力で書くことができていました。ただ、上位層と下位層の評価の差は大きく、下位層の志願者は、Essay 1においては、何をしたかが中心の展開になっており、そこからどう考え、何を学び、自分の成長にどう役立ったかという説明が不十分な傾向がありました。上位層の志願者は、求められている内容を限られた語数で具体的且つ明瞭に説明することができており、英語での文章構成・表現力ともに水準を超えるレベルでした。また、高得点者には、Essay 1とEssay 2の内容に関連づけが見られました。Essay 1に書いた経験や学びを、Essay 2で本学部での学びにつなげることにより関心や意欲を示し、積極的な学びに対する態度や姿勢が分かる内容となっていました。

6. 次年度の受験生へのアドバイス

グローバル教養学部では、全ての科目を英語で学びます。入学後、アカデミックな環境における教員やクラスメイトとのコミュニケーションを通して、英語での豊かな表現力、言語運用能力に磨きをかけていきますが、その基礎となる英語力は必須です。入学後積極的に授業に参加できるようにするためにも、読む・書く・聞く・話す、全ての英語スキルをバランスよく身につけることを目指してください。

また、本学部は、立命館大学とオーストラリア国立大学（ANU）の2つの学位を取得するデュアル・ディグリー・プログラムです。書類審査のEssay 2では、立命館大学グローバル教養学部において何をどう学びたいのかという点のみならず、ANUのCoral Bell School of Asia Pacific Affairsにおいて何を学びたいのかという点についても、明示的・具体的に述べられていることが必要です。

英語力も思考力も、日々の努力と積み重ねによって身につけていきます。本学部を目指される皆さんは、日頃から様々な社会問題に目を向け、それに対する自身の理解と考えを深める努力をするとともに、自らとは異なる意見や立場があることにも注意を払い、勉学に励んでください。

以上